

ワクワク はこね温泉

第 12 回

「宮城野温泉」

菊川城司

(神奈川県温泉地学研究所)

■ はじめに

箱根火山のめぐみによって生まれた箱根温泉について、シリーズで紹介する 12 回目です。今回は、箱根二十湯のうち、宮城野温泉のおはなしです。

宮城野温泉は、箱根町宮城野に湧出する温泉の総称で、大文字焼きで有名な明星ヶ岳と明神ヶ岳の山裾か



写真 1 上空から見た宮城野温泉の様子。

正面の山が明神ヶ岳、明星ヶ岳です。中央下側を横切る早川の南側は強羅温泉です。

ら山腹にかけて拓かれています（図 1、写真 1、写真 2）。

宮城野という地名は、奥州の宮城野（現在の仙台市宮城野区）に気候風土が似かよっていたために付けら

れたと言い伝えられています。

宮城野温泉の早川の左岸沿いには、数百 m に渡って約 150 本のソメイヨシノが並んでおり、毎年 4 月には桜祭りが開催されています（写真 3）。桜並木の並ぶ早川の近くには箱根町営の日帰り温泉施設である宮城野温泉会館、明神ヶ岳山腹の明神平には東急リゾート株式会社が開発した別荘地などが広がっています。

宮城野温泉で最も有名な行事といえば大文字焼きです。毎年 8 月 16 日夜に、明星ヶ岳の頂上近くに描かれた横幅が 100 m 以上ある「大」の字が火文字として浮かび上がります。大文字焼きは、1920（大正 9）年に当時の皇太子（後の昭和天皇）が強羅に行啓された際に始まり、その後は孟蘭盆^{うらぼん}の先祖供養や慰安のためとして定着しました。現在は、大きな観光行事として位置づけられており、毎年多くの観光客で箱根町中が賑わいます。

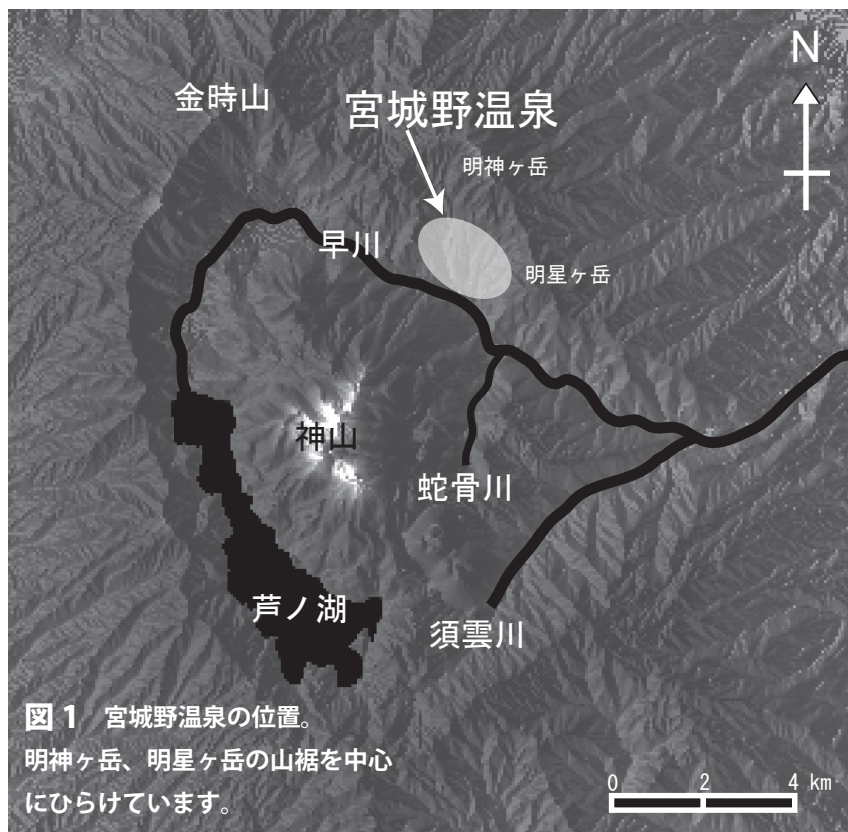


図 1 宮城野温泉の位置。

明神ヶ岳、明星ヶ岳の山裾を中心にひらけています。



写真 2 秋の早雲山駅付近から見た宮城野温泉方面。画面左側の明神ヶ岳山腹に建物が見えている辺りが明神平別荘地です。右側の明星ヶ岳山腹には箱根の森小学校などがあります。

■ 宮城野温泉の歴史

宮城野温泉で最初に温泉が掘削されたのは 1952（昭和 27）年です。早川と国道 138 号線の間に掘削されました。その後、昭和 30 年代には、強羅温泉や木賀温泉からの引き湯が始まり、寮や保養所が増えていきました。

明神平では、1965（昭和 40）年に宮城野温泉で二番目の源泉が掘削されました。この源泉では、箱根で初めて水中ポンプが利用されました。明神平では昭和 40 年代にさらに 2 本の源泉が掘削されましたが、いずれも水中ポンプを使用すること

で許可を受けています。これは、明神平では温泉の水位が地下数百 m と深く、それまで箱根で主に使用されてきたエアリフトポンプでは汲み上げられなかったからです。水中ポンプは、くみ上げる能力が強力すぎるとして、温泉保護のために箱根温泉では使用の許可が下りていませんでしたが、このような理由で宮城野温泉で初めて許可となりました。その後は水中ポンプを利用する源泉が徐々に増加し、現在では、箱根全体の約四分の一の源泉（約 90 源泉）で利用されています（表 1）。

宮城野温泉は、県の温泉台帳では、強羅、二ノ平、木賀の温泉とともに

旧宮城野村の源泉として登録されています。宮城野村は、1889（明治 22）年に施行された町村制によって誕生しましたが、その後、1956（昭和 31）年に湯本町、温泉村、仙石原村とともに箱根町に併合吸収され箱根町として歩んでいくこととなりました。

温泉以外のこともみてみましょう。

宮城野と仙石原を結ぶ碓氷道と呼ばれる古道は、明神ヶ岳の山腹を通っており、国道（現在の国道 138 号線）ができるまでは重要な幹線道路として利用されていました。碓氷峠には、碓氷梅林と呼ばれる梅林が



写真 3 宮城野温泉の桜。春には桜祭りが開催されます。

表 1 箱根温泉の温泉台帳毎のポンプ利用状況。データは 2017（平成 29）年のものです。宮城野台帳には、宮城野温泉のほかに強羅温泉、二ノ平温泉、木賀温泉が含まれています。

台帳名	エアリフト ポンプ	水中 ポンプ	タービン ポンプ	蒸気井	湧泉
湯本	27	53	2	0	2
温泉村	42	11	1	0	40
宮城野	56	8	1	11	7
元箱根	2	14	0	4	3
仙石原	4	4	0	0	0
芦之湯	3	0	0	0	7
大涌谷	0	0	0	20	24
箱根全体	134	90	4	35	83



写真4 諏訪神社。2019（令和元）年の台風19号の被害により、2020（令和2）年3月10日時点では立ち入り禁止となっています。



写真5 小田原城内高等学校分校跡の石碑。分校跡は、現在は宮城野保育園となっています。

あり、春にはきれいな梅が咲き誇ります。

毎年7月15日に諏訪神社（写真4）で行われる湯立獅子舞は、仙石原で3月27日に行われる湯立獅子舞とともに無形民俗文化財に指定されています。この獅子舞は、1776（安永5）年に甲州から伝来したとされており、獅子が釜に浸した熊笹から振りまくお湯を浴びると無病息災で過ごせると言い伝えられています。

宮城野には、県立小田原城内高等学校箱根分校（定時制）がありました。箱根分校は1950（昭和25）年に開校しましたが、1999（平成11）年に閉校しました。現在、同

校の跡地は、宮城野保育園となっていますが、敷地の片隅には「箱根分校ここに在りき」と書かれた石碑が建っており当時を偲ばせます（写真5）。

■ 宮城野温泉の現状

2019（平成31）年3月末現在、箱根温泉の源泉は全部で348ヶ所ですが、宮城野温泉にはそのうちの4源泉があります（図2）。宮城野温泉にある宿泊施設は109軒、公衆浴場は32軒です（写真6、7）。

2016（平成28）～2017（平成29）年に宮城野温泉の4源泉で行われた調査結果の平均値では、温度は64.8℃、揚湯量は1分間に64リットル、pHは8.7でした（表2）。

■ 宮城野温泉の泉質

宮城野温泉の泉質は、ナトリウム・カルシウム塩化物・硫酸塩泉、アルカリ性単純温泉です。温泉に溶けている成分の総計は400～1500mg/kg程度で、主な成分は食塩と石膏となっています。

表2 宮城野温泉の平均値。

2016（平成28）～2017（平成29）年の調査による4源泉の平均値です。

項目	平均値
温度（℃）	64.8
揚湯量（L/min）	64.
pH	8.7
電気伝導度（ $\mu\text{S}/\text{cm}$ ）	1402.
ナトリウムイオン（mg/L）	214.
カルシウムイオン（mg/L）	62.2
塩化物イオン（mg/L）	263.
硫酸イオン（mg/L）	223.
炭酸水素イオン（mg/L）	87.3
メケイ酸（mg/L）	92.
メホウ酸（mg/L）	15.9
成分総計（mg/L）	962.



図2 宮城野強羅温泉の源泉分布。2019（令和元）年現在。



写真6 町営の宮城野温泉会館。隣には釣り堀もあります。



写真7 日帰り温泉勘太郎の湯。残念ながら2019（令和元）年6月に閉館しました。

数少ない宮城野温泉の源泉ですが、地質的には早川沿いと明神平の2地域に区分できます。早川沿いの地域で湧出する温泉は、強羅潜在カルデラ構造に由来する温泉ですが、明神平では、強羅潜在カルデラ構造よりもさらに古い地層からの温泉が

湧出しています（図3）。

なお、強羅潜在カルデラ構造については、前号の「ワクワクはこね温泉 第11回 強羅温泉」にも掲載していますので、ご興味のある方はご参照下さい。

今回は、宮城野温泉について簡単に紹介しました。次回は、芦之湯温泉について紹介します。お楽しみに。



図3 強羅潜在カルデラ構造と温泉場。宮城野温泉は、構造のちょうど境目あたりに位置しています。○印は図2と同じく宮城野温泉の源泉を示しています。